

尼崎市支え合いを育む人づくり支援事業 教育・研究活動事業実績報告書

教育・研究活動名	地域防災×地域交流プロジェクト			
申請大学・高校等名	大学及び高校等名	関西国際大学		
	活動グループ名	地域防災ボランティアサークル「ちーぼ」	参加学生等人数	21 人
指導責任者名及び連絡先	学部・学科等名称	教育学部教育福祉学科		
	責任者氏名	岩本 裕子	連絡先電話番号	
	E-mail			
協働する市民活動団体及び代表者名	団体名	潮江社会福祉連絡協議会		
	代表者氏名	会長 藤原 靖彦	連絡先電話番号	
	E-mail			
教育・研究活動目標	学生が地域の高齢者や子ども達、生活弱者の安全・安心を 考え、地域の自主防災の普及と地域連携の推進を行うことを目的とする。 さらに市内での有事には、災害支援に携わることができる人材を育成することを目的とする			
活動内容及び実績、評価	(活動の実績) 別添のスライド参照 ・「災害ボランティアセンターマッチングシュミレーションゲーム」を地域イベント等でも実施できるように、「災害ボランティアセンターマッチングシュミレーションゲーム会」を学内で学生対象にて開催した。10 数名の参加者があり、 災害ボランティアセンターに関する知見を深め、進行等運営方法を練習した。 ・連携先である潮江連絡協議会とは、商店街イベントへのご案内、見守り活動などでも連携している。今年度の自主防災訓練にもお声がけいただいたが、タイミングが合わず参加できなかった。次年度(R6)の自主防災訓練への参加については、参加できるよう早めに打ち合わせを行っている。 ・3 月 30 日の報告会では、ポスター発表だけでなく、ダンボールベッドの組み立て実演、防災対策に関するアンケートの実施を行い 38 名からご協力いただいた。アンケート回答者へは無印良品の長期保存野菜スープ(トマトスープ・かぼちゃスープ)をプレゼントし、身近なローリングストックの方法について紹介も行った。3/30 だけではアンケートの景品のスープが残ったので、4 月以降も新入生を対象に活動報告の説明やアンケートを実施していく。   (評価)			

① 想定していた活動成果に対する達成度合い(達成できたこと、できなかったこと等)
学生にとっては、知識と経験を結びつけることを目標としていたが、さまざまな場面で実践できた。

心肺蘇生や手づくり防災グッズの作成のワークショップ(イベント出展)などの準備プロセスやお越しいただいた市民の方々との交流をとおして、知識と経験を増やすことができた。潮江地域のイベントでは、尼崎信用金庫の方々が準備段階で大学に来てくださり、事前研修の様子を見ていただき、交流することができた。潮江地域の商店街の方々とも準備段階から交流することができた。

また、最後の報告会では潮江地域の地域活動をなさっている住民の方々とちーぼの活動(特にちーぼが被災地(石川県)に支援に行ったお話しに興味を示されこれらをとおして、自分たちの被災時のお話を伺ったりすることもできた。

アンケートにおいてもちーぼへの今後の活動への期待もいただいたので、今後ますます尼崎市内の災害や防災の支援に取り組んでいきたい。

・学生等が関わった地域、団体の活動の変化等

上記のとおり、地域の団体の方々には前向きな評価をいただくことができている。潮江地域のイベントでは、尼崎信用金庫の方々が準備段階で大学に来てくださり、事前研修の様子を見ていただき、当日も出展ブースにお越しいただき、交流することができた。

また、年度最後の報告会では潮江地域の地域活動をなさっている住民の方々とちーぼの活動のなかでも、特にちーぼが被災地(石川県)に支援に行ったお話しに興味を示され、これらをとおして、自分たちの被災時のお話を伺ったりすることもできた。

この事業をとおして、地域の防災意識の高まりや、地域での取り組みの促進につながったのではないかと考えている。

・学生等の学習意欲、地域に対する考え方の変化等

第一に、学生にとって、架空の人ではなく、実際に地域で生活する人々と出会うことで、これらの人々や地域に少しでも貢献したいという思いが強くなり、そのために災害や防災についてもっと学びたいという学習意欲にもつながった。自分たちが学ぶ必要があることを実感している。今後は知識や体験を増やして、それを還元できるようにしていきたい。



※ 報告書の内容及び掲載写真は、市報、HP等の市の発行する媒体への掲載される場合がありますので、事前に学生等の同意を得た上で、提出をお願いします。